

日本の映画業界関係者の皆さまへ

音楽家の坂本龍一です。

私はこれまでに国内外の映画の音楽を多数手掛けてまいりました。また、私のソロ作品から映画へのシンクロナイゼーション依頼も頻繁にあり、多くの作品に使用許諾をしてきました。

昨年、ベルギーのアントワープ映画祭で **Life Time Achievement Award** をいただいた際、スピーチの最後で以下のような発言をいたしました；

音楽は映画の中で重要な役割を担っています。

しかし多くの場合、音楽は映画制作プロセスの最後に位置づけられます。それは、音楽制作に掛けることのできる十分な時間と予算が残り少なくなっていることを意味します。映画制作者のみなさんがもっと音楽の重要性に理解を示し、音楽家によるクリエイティビティーが映画に十分に活かされ、正当な対価が支払われることを望みます。

会場にいた仲間の作曲家や音楽関係者から大きな拍手をいただいたことはご想像に難くないと思います。

音楽業界全体の売上げ縮小が続く中、音楽家は音楽を作るだけでは生活することが難しくなっています。インターネットを介した音楽の頒布は素晴らしいことですが、音楽自体の値段が限りなくゼロに近づいているのは残念な事実です。しかし、映像と一体となる音楽のアウトレットは、形を変えながらますます需要が増しています。そんな時、新作・既存に関わらず、使用される音楽とその著作者に対しての正当な対価が支払われることが重要なのは言うまでもありません。映画興行収入において世界の高位である日本が、先進国ならびにアジアの中でリーダーシップを発揮し、クリエイターの経済的基盤を守るために力を尽くしてくださいことを願って止みません。

2017年11月7日

坂本龍一

